

美しい九頭竜川・福井の海をみんなの手で  
**九頭竜川流域ごみ問題ワークショップ**

九頭竜川・足羽川・日野川・竹田川の流域および河口周辺において、河川ごみ・海ごみの問題に携わっている団体および行政が一同に会して、流域における取り組みの現状と課題について話し合います。河川や海の環境保全、ごみ問題、リサイクル等に関心をお持ちの皆さまのご来場をお待ちしております。

**日時：平成 20 年 11 月 30 日（日）13：00～16：00**  
**場所：福井商工会議所ビル 会議室 A・B**

**参加費  
無料**

■ワークショップの背景

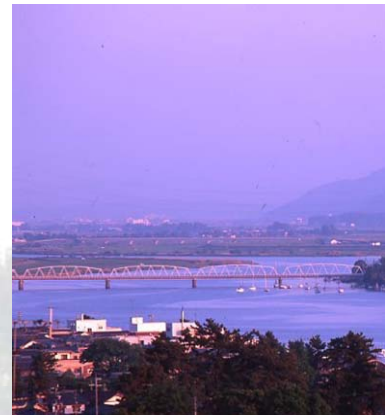
福井の海岸には大量のごみが漂着しており、九頭竜川水系においても多数のごみが見つかっています。これらは景観を損なうと同時に、鳥が間違っただけで飲み込んだり、絡まってしまうなど、生物への影響が懸念されています。

海ごみ・河川ごみは、プラスチックごみが大半を占めており容易には分解しないことや、発生者の特定が難しいといった問題があります。

海ごみの発生源として、陸起源のものと海起源のものがあり、一般的に陸起源のものが約 8 割<sup>\*</sup>を占めており、河川を通じて海に流れ込んでいると考えられています。このため、流域全体での取り組みが必要と言えます。

このような背景のもと、環境省 H20 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査の一環として本ワークショップを開催します。

※JEAN/クリーンアップ全国事務局 クリーンアップキャンペーン 2007 REPORT より



■発表・討議を行う団体

- エコネイチャー・彩みくに (坂井市)
- NPO 法人ドラゴンリバー交流会 (福井市)
- 勝山青年会議所 (勝山市)
- まちおこし21 (池田町)
- 〔ゲスト〕 JEAN/クリーンアップ全国事務局 (東京都)
- 〔ゲスト〕 美しい山形・最上川フォーラム (山形県)
- 坂井市
- 福井県
- 近畿地方整備局福井河川国道事務所
- 環境省

■問い合わせ・申し込み先

〔事務局〕日本エヌ・ユー・エス株式会社 中澤 和子  
 E-mail : litter2007@janus.co.jp  
 フリーダイヤル : 0120-133395 FAX : 03-5440-1870  
 〒108-0022 東京都港区海岸 3-9-15 Loop-X ビル 8F

メール、FAX またはハガキで、氏名、所属・役職、住所、ご連絡先（電話、FAX）を上記申し込み先までお知らせください。

※希望者が定員（50 人）を超えた場合は先着順とさせていただきます。申込締切日：平成 20 年 11 月 26 日（水）（必着）

**呼びかけ人** エコネイチャー・彩みくに  
**NPO 法人ドラゴンリバー交流会**  
**主催** 環境省  
**協力** 福井県、坂井市



JR 福井駅よりタクシーで 3 分、徒歩で 15 分  
 北陸自動車道 福井インターより車で 15 分  
 福井市西木田 2-8-1 TEL : 0776-33-8251  
 駐車場無料（駐車サービス券をお渡しします）

図 5.4-3 ワークショップの案内チラシ

## (9) 開催結果

会場の様子および開催後の新聞記事を図 5.4-4 および図 5.4-5、図 5.4-6 に示す。議事録を資料編に掲載した。

### a. 参加者

- ・ 円卓着席者 12名 (5.4.3(6)項参照)
- ・ 一般傍聴者 44名
- ・ 報道関係者 3社

### b. 主な議事内容

前半には、円卓着席者よりそれぞれ発表がなされた。流域4団体からは、流域におけるゴミの実態、クリーンアップ活動や発生抑制に関する取り組み、今後の課題等について報告がなされた。関係行政機関からは、各機関における関連の取り組みと今後の課題について報告がなされた。ゲスト団体からは、漂流・漂着ゴミの問題点、最上川流域における連携の事例について紹介がなされた。

後半の全体討議では以下のテーマについて討議を行った。

「九頭竜川水系の河川ゴミ・海ゴミを減らすために」

- ・ 河川や海岸の各所で行われている清掃活動を、どのように流域全体に広げて／つなげていくのか
- ・ ゴミの発生を減らすための取り組み・啓発活動を効果的に進めていくには、どのようにすればよいか
- ・ 活動団体、住民、行政、企業、学校間の連携、また流域全体での連携を、どのように深めていけばよいか

討議テーマの提示に続いて、ゲスト団体から「海ごみプラットフォーム」の紹介があった後、傍聴者も含めて討議を行った。出された主な意見・提案を整理すると以下のとおりである。

#### 1) ゴミの回収・処理

- ・ 河川で集めた燃えるゴミを、河川敷で焼却処分してよいという特例を、期間を1週間程度に限って認めてはどうか。
- ・ 河川敷の農地から出されるゴミについて、犯人探しではなく、関係者が自分達の川の現状を一緒に見る機会を持つところから始め、住民の参加を得て回収を進める。
- ・ 川守活動の一環としての草刈り・清掃、企業の参加を得ての河川公園の清掃の拡大が必要。
- ・ 漂流・漂着ゴミの回収・処理等に係る責任の明確化、国の補助制度の要件や補助先の統一化が必要。

#### 2) 発生抑制

- ・ 川を守るメンバーを流域ごとに何人か選考して、川守として川を巡視する制度を設けてはどうか。
- ・ 流域におけるゴミの発生源を踏まえた、きめ細かい対策が必要。
- ・ プラスチックの発生抑制につながるように、企業の責任を強化できないか。

- ・ 上流から下流まで統一した考え方・方法で分別処理に取り組むことが必要。
- ・ 処分費用のかかるものが捨てられる傾向がある。デポジット制の導入などを国全体で検討する必要がある。
- ・ 学校での環境教育や地域で協力した活動を通じて、子供たちへの啓発を進めてはどうか。
- ・ ゴミを捨てる人の責任について啓発を含めた検討が必要。
- ・ 具体的な情報を用いた広報により、一般の理解を深めていくことが必要。

### 3) 連携強化

- ・ 連携という言葉はよく出るが、具体策がなく抽象的な言葉として終わっているのが実態である。
- ・ 上流から海までネットワークをまず作り、その中でゴミの抑制や情報交換等を進めていく。
- ・ ネットワークは作ったら終わりではなく、皆で絶えず手入れをしていく必要がある。まずはそれをどうするか相談する。
- ・ 各団体のアクションカレンダーを共有化して、他の団体の人々がお互いに参加できるようにする。
- ・ 公民館活動をベースとして、それぞれの地域ごとにゴミ問題に取り組むリーダーを育て、その活動を支援していく。
- ・ 企業の参加を促進するために、何らかの特典のようなものを行政で設けてはどうか。
- ・ 国レベルおよび地方レベルでの関係行政の連携を深めることが必要。
- ・ ゴミをなくしたら終わりなのではなく、人の交流が増えて、人がよりよく暮らしていく状況に向けて楽しく活動を進めていきたい。
- ・ 一番大切なのは連携そのものではなく、連携して「活動していくこと」だと考える。今回のワークショップをきっかけに今後定例会などを開き、具体的な議論ができることを希望する。

最後に本ワークショップのまとめとして以下の宣言文が阪本会長から提案され、満場の拍手により全会一致で採択された。

#### 九頭竜川流域ごみ問題ワークショップ宣言

私たちは、河川ごみ・海ごみを減らして、美しい九頭竜川水系および福井の海を未来に引き継ぐために、清掃活動や発生抑制に向けて、連携と協働して継続的な活動を進めていきます。





開会



会場の様子



円卓着席者からの発表



傍聴者からの質問



全体討議 1



全体討議 2



全体討議 3



全体討議 4 (会場からの意見)

図 5.4-4 ワークショップの様子

九頭竜川や海の漂着ごみの抑制へ自治体や市民団体が認識を深めたワークショップ=30日、福井市の福井商工会議所ビル



# 海、川ごみ削減へ連携

## 九頭竜川流域団体が会合

福井

海や川に漂着するごみ対策について行政、市民団体が話し合う「九頭竜川流域ごみ問題ワークショップ」が三十日、福井市の福井商工会議所ビルで開かれた。自治体、市民グループなど十一団体がそれぞれ取り組みと現状、課題を紹介。「美しい九頭竜川水系と海を未来に引き継ぐため連携・協働して継続的活動を進める」とする宣言を採択した。

九頭竜川河口と海岸線を持つ坂井市は、漂着ごみ削減に取り組む環境省の「漂流・漂着ごみの削減方策調査」モデル地域に指定されている。ワークショップは川の流域全体を巻き込んだごみ削減体制を確立しようと同省が開催。河川や海の美化、親水活動に取り組むグループや自治体の代表者が出席。団体メンバーら約四十人が傍聴した。

同省が坂井市の海岸で実施した漂着ごみ調査を報告。東尋坊、雄島を含むエリアに年間約二十一万ものごみが漂着していることを紹介した。うち八割がペットボトルなど国内外の陸から流れ出たごみであること、ペットボ

トルの五割が国内ごみであることも指摘された。県内からは坂井市、池田町、勝山市など九頭竜川水系の上下流で活動する四団体が発表。坂井市で海岸美化活動に取り組む団体「エコネイチャー・彩みくに」の阪本周一会長は、雨の日に流れ出たごみで埋め尽くされた川水の流れ、川沿いの不法投棄の現状を解説。「上流はきれいでいいが、下流域はゴミ捨て文化のせいでひどい状況」と流域一体の取り組みを訴えた。

図 5.4-5 翌日の福井新聞の記事 (2008年12月1日)

# 論説



県内の海岸や九頭竜川河口に漂着するごみに対し、流域の住民団体と行政機関との連携した動きが、このごみの活発化して

きた。先月末に環境省主催の「九頭竜川流域ごみ問題ワークショップ」が福井市で開かれ、九頭竜川の上流から河口までの流域の四つの住民団体(環境団体)、それに国土交通省や県など行政  
しい川に」との関係者の熱い思いが感じられる。もともと、このワークショップ開催のきっかけは、環境省が一昨年の九月から一年にわたり、坂井市三国町の海岸線で行った「漂着ごみの調査」だ。同省か  
生場所をたどると、海外より日本国内から出たものが半数に上った。また過去のデータを元に、コンピュータで発生源を探ると、「約七割は県内から、川な  
をばしめ「ドラゴンリバー交流会」「勝山青年会議所」「池田町まちおこし21」が一堂に会した意義は大きい。さらにこの四団体は「ごみは上流から下流へ；最後は海を汚す」との共通認識を持ったことも、意味合いとしては非常に大きい。  
ワークショップの呼び掛け人となった「彩みくに」の阪本周  
一會長(まきも)「下流だけが迷惑を被っているなどと低レベルの話でなく、流域全体で海を汚さないために、どう協働したらいいかが大事。団体間で本音で話し合いたい」と今後の協議に期待をかける。  
これまで河川管理は行政機関が主体で、住民側も、お任せ的な考えが主流だった。しかし川の恩恵を受けている地域住民が自ら動きだしたケースとして歓迎したい。  
全国の河川百六十六のうち、水質では七十七位に位置する九頭竜川。「九頭竜川水系をもっと美しく」の思いが環境団体から、さらに一般市民へもっと広がることを願ってやまない。

## 九頭竜川ごみ問題 住民主導の活動に期待

の担当者が集い、今後の盛り上がりに向け、「連携と協働し継続的活動をの宣言をまとめた。さらに今月二十四日には、これを受け、第一回となる四団体による交流会が開かれる。九頭竜川水系を水質だけにとどまらず、環境的にも景観的にも「美しい川に」との関係者の熱い思いが感じられる。もともと、このワークショップ開催のきっかけは、環境省が一昨年の九月から一年にわたり、坂井市三国町の海岸線で行った「漂着ごみの調査」だ。同省から委託された民間会社が、東尋坊や雄島など約九・五キロの範囲で二カ月置きに五回にわたり調べたところ、プラスチック類を筆頭に、流木や木材など約二十トンのごみが漂着していたことが分かった。さらに、これら漂着ごみの発

図 5.4-6 福井新聞の記事 (2008年12月23日)

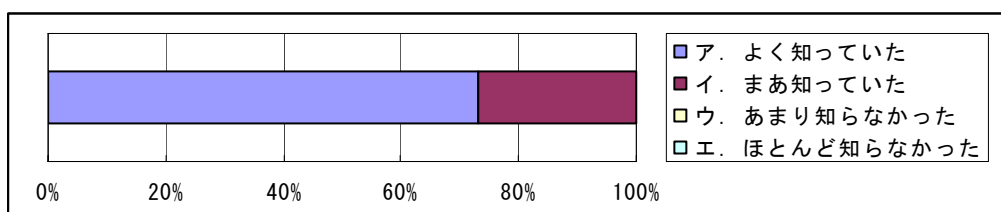
## (10) アンケート結果

傍聴者を対象にアンケートを実施し、漂流・漂着ゴミや河川ゴミに対する認知度の程度、次回ワークショップへの参加意欲、流域のゴミ削減のための方策、その取り組みへの参加意欲について調べた。

アンケートの結果を以下に示す。傍聴者 44 人のうち 37 人から回答を得た。回収率は 84% であった。

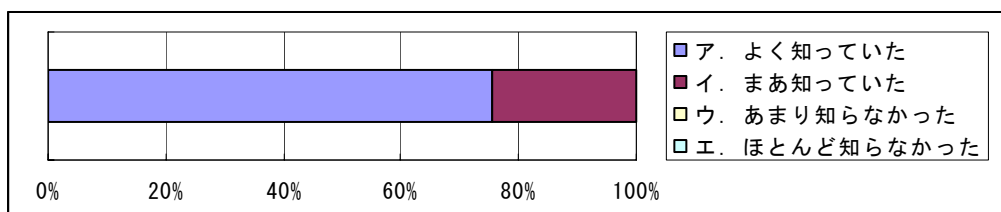
### a. 問 1「海の漂流・漂着ゴミ問題について知っていましたか」

「よく知っていた」が 7 割強、残りは「まあ知っていた」であり、参加者の漂流・漂着ゴミに対する認知度は高いと推測された。



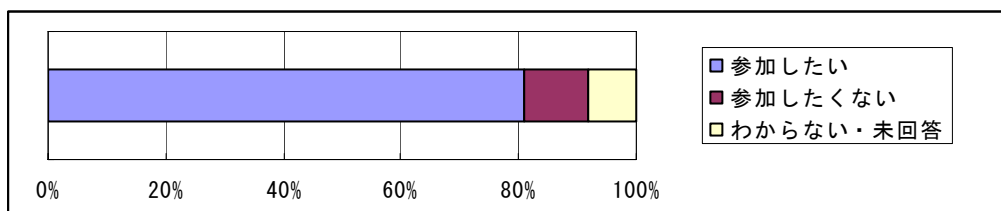
### b. 問 2「河川のゴミ問題について知っていましたか」

「よく知っていた」が 8 割弱、残りは「まあ知っていた」であり、参加者の河川ゴミに対する認知度は高いと推測された。



### c. 問 3「次回のワークショップがあれば参加したいですか」

「参加したい」が約 8 割であり、今回の参加者の次回ワークショップへの参加意欲は高いと推測された。



### d. 問 4「流域でのゴミを減らすために、どのような取り組みが必要だと思いますか」

自由回答(回答者 31 名)の概要は以下の通り整理された。発生抑制に関する回答が多く、環境教育・啓発活動、製造者責任の強化、分解性プラスチックやデポジット制の導入、不法投棄の防止などがあげられた。

#### 1) ゴミの回収・処理

- ・ 流域全体の一斉清掃を実施する。定期的な実施。
- ・ 行政、自治会、学校、企業が連携した清掃活動の実施。行政のリーダーシップ。全住民の参加。

- ・ 流域に注ぐ市町の川についても地元で清掃に取り組むことが必要。
- ・ 各クリーンアップ会場にスタンプラリーがあるとよい。

## 2) 発生抑制

- ・ 環境教育や環境活動を義務化する。国全体での教育を進める。
- ・ ポイ捨てをなくすために、まずはゴミ回収への参加から始める。
- ・ 子供の頃からしっかりと環境・ゴミ問題を教える。学校教育の場での学習時間の確保。
- ・ 子供への環境教育も大切であるが、大人へのゴミ問題に対する啓発が必要。
- ・ 啓発活動により住民一人一人の意識改革を図る。海岸や河川のゴミの実態を知らせる。現場を見てもらう。報道等で、川の現状の映像を流してもらう。
- ・ ゴミ問題については、3Rだけでなく、漂着ゴミの問題も含め広く取り扱う。
- ・ ゴミの処理費用に税金が使われていること（自分達が負担していること）を知らせる。
- ・ 釣り客への広報活動。
- ・ 提内耕作者に対する意識向上、あるいは耕作の禁止。
- ・ 河川敷への車輛進入の禁止。
- ・ 世界各国への呼びかけ。ODAの活用。
- ・ 普及啓発だけでは限界があり、発生源対策についてもっと検討すべき。
- ・ 政府のイニシアチブにより製造者の責任を明確にし、ゴミ減量への取り組みや処理費用の負担をさせる。
- ・ モラルの向上を求めるだけでなく、物理的な規制方策が必要である。例えば自然分解性容器の使用や、空きカン等のデポジット制の導入など。
- ・ 包装資材の自然分解技術の開発。
- ・ ゴミの出方を正確に把握する。
- ・ 不法投棄の防止対策。継続的な呼びかけと監視。雑草の草刈り。
- ・ 全市町村でゴミのポイ捨て禁止等の条例を整備する。
- ・ 取締りの強化。罰金をびっくりするくらい高くする。

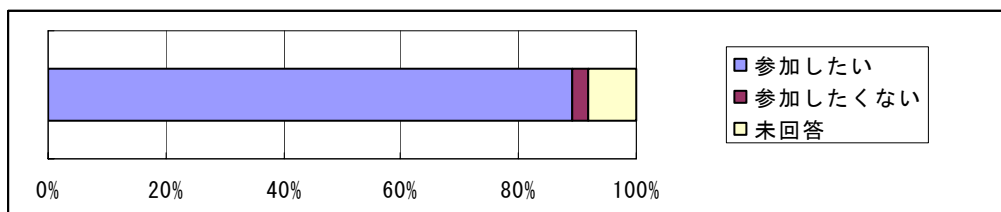
## 3) 連携強化

- ・ 上流、下流、河口住民のゴミに関する交流を行う。
- ・ 住民、企業、ボランティア組織等、市町、河川・海岸管理者が一体となって地域を美しくする運動を実施する。
- ・ 環境や河川団体グループの流域ネットワーク化を進め、行政が側面支援をする。
- ・ 流域市町村の連携。県が主体となって運動を進める。
- ・ 市、県、国が連携してもっと真剣に取り組む必要がある。
- ・ 楽しいイベント会場として一層活用する。

### e. 問5「今後の流域でのゴミを減らす取り組みに参加したいですか」

「参加したい」が9割弱であり、今回の参加者のゴミ削減に関する取り組みへの参加意欲は高いと推測された。





f. 問6「本日の感想や、今後の会合や活動に対するご提案など、ご自由にお書きください」

自由回答（回答者 25 名）の概要は以下の通り整理された。今後の活動に対する提案として、流域としての取り組みや、連携の強化、行政のイニシアチブなどがあげられた。

1) 今後の会合に対する提案

- ・ 先進事例の発表研究会を多くする。
- ・ 発生源対策やクリーンアップ時のゴミ処理問題の検討も必要。
- ・ 宣言を生かすためには、年一回よりも高頻度の定期的な会合が必要。
- ・ 新聞広報で開催を知った。広報は様々な手段で行って欲しい。
- ・ 事前 PR が不足している。もっと広く広報し、テレビや新聞で報道されるようにしてほしい。
- ・ 内容はとてもいいが、もっとたくさんの傍聴者が入れる会場にすべき。
- ・ 関係者が多いようだが、より多数の市民が参加できるようにするとよい。学校の先生方にも是非聞いてほしい。
- ・ 字が見えない資料があった。
- ・ 進め方がお役所主義的で硬い。
- ・ 専門家、関係機関の報告ばかりで、長時間聴いているのがつらい。途中で CD を流すなどリラックスタイムがほしかった。
- ・ 全体討議の時間が少なく物足りない。
- ・ 開催時間は守ってほしい。

2) 今後の活動に対する提案

- ・ 九頭竜川では、ペットボトル、空缶、包装のビニール袋などが多いような気がする。流域全体での発生抑制が大切であり、小中学校を使った対策がおもしろいのでは。
- ・ 流域としての全体的な取り組みが必要であり、行政、自治会、周辺の企業を巻き込んで活動する。
- ・ 住民運動は知事が本気にならないと進まない。日本一「きれいな町づくり」を提唱すべき。
- ・ 金と情報を持っている行政が、住民運動に丸投げしているのはおかしい。行政が環境保全について、縦割りではなくトータルな視点からきちんとした方針を示せば、住民は協力して知恵を出すと思う。
- ・ 海岸に面した自治体による全国規模の会議を実施すべき。
- ・ お金を取られるようにすれば、個人も企業も考える。
- ・ 団体、組織に頼らず個人を集めてボランティア活動を進めてはどうか。そのためには広い情報提供が必要。
- ・ 県が年 4 回実施している「クリーンアップ大作戦」を今回初めて知った。広報により、多くの人達を集めるようにすると良い。

- ・ 川や海の団体はゴミに関して同じ悩みを持っていると感じた。ネットワークによる情報交換が必要。
- ・ 上、中、下流の人達が一緒になって九龍川を誇りに思いきれいにしていきたい。いくべきである。
- ・ 原因は分かっているはずであり、1つ1つの具体的な対策を実施する。
- ・ プラスチック業者等に、無機質材料から有機質材料に転換するよう働きかける。
- ・ 川遊びの出来る水辺空間の整備も必要である。

### 3) 感想

- ・ ありがとうございます。
- ・ こういった取組みの必要性が感じられた。
- ・ 色々な分野の方の活動内容が参考になった。
- ・ 福井県の地域での取組みがよくわかった。
- ・ 発表者が多く、深みがなかった。
- ・ 三国の海に流れ込んできたゴミの映像は、何度見ても考えさせられる映像であり、環境問題は他人事ではない、身近なものだという点で、これ以上ない環境教育の教材である。
- ・ 最上川の取組みも興味深かった。どこの河川でも、同じ問題で悩んでいるのだと感じた。
- ・ 人間の出したゴミが漂流して、無人島に住む小動物達の生命を奪っている事がショックであった。
- ・ 人間はキレイな場所を好む割には、案外ポイ捨てしたりして矛盾が多い。今後も自分だけでもゴミの発生を少なくしたり、正しい分別に努力し、地球環境を一日でも永く守っていきたい。

#### 5.4.4 今後に向けて

本ワークショップには大きく分けて、①今後の活動の核となりうる団体間の連携強化と、②今後協働して活動していけそうな団体の緩やかなネットワーク化、という二つの狙いがあった。

②については、主として傍聴者に対する情報提供を通じて、その目的の達成を図った。当日は44名の傍聴者の参加があり、アンケート結果から、今後の会合やゴミ削減の取り組みへの参加意欲が高いと推測された。また、福井県内で高いシェアを占める福井新聞に2回にわたり関連記事が掲載された。これらのことから、一定数の傍聴者の緩やかなネットワーク化に加えて、その予備軍の関心喚起という点において一定の成果が得られたと考える。

一方、①については、情報共有による相互理解の促進と、全体討議による課題の共有化を通じて、その目的の達成を図った。情報共有(=傍聴者への情報提供)に多くの時間を配分したため、全体討議において十分な議論を行うには時間が不足し、課題の共有化が不十分なものとなったことは否めない。しかしながら、相互理解の促進に加え、九頭竜川流域ごみ問題ワークショップ宣言の採択により、今後の連携した継続的活動に向けたきっかけづくりには成功したと思われる。

今回のワークショップを契機として、九頭竜川流域における漂流・漂着ゴミへの取り組みの進展が期待されると言える。

## 6. 地域検討会の実施

### 6.1 目的

福井県坂井市のモデル海岸における漂流・漂着ゴミを対象として、各地域の特性に応じた効果的、効率的な回収・運搬・処理手法の検討を行うため、調査結果やその解析の検討を通じて、地域の漂着ごみ対策に資するために実施した。

### 6.2 地域検討会の構成

検討会は、福井県立大学生物資源学部の大竹臣哉教授を座長として、モデル海岸が位置する福井県及び坂井市の廃棄物対策関係部署、海岸管理に関係する国土交通省地方事務所、海上保安部及び海上保安署、地元の自治会長、漁業協同組合、地域で漂着ゴミ問題に関するNPOや団体の代表を検討員として構成されている。

なお、各検討員が出席できない場合は、可能な限り代理の方に出席をお願いした。また、期間の途中で人事異動等による検討員の交代があった。

表 6.2-1 漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（福井県）名簿

検討員（五十音順、敬称略）	
井 黒 虎子男	米ヶ脇自治会 会長（波多野 勲副会長が代理出席）
前 田 孝 夫	坂井市生活環境部環境衛生課 課長（第4回以降交代）
→大 杉 彰 一	
大 竹 臣 哉（座長）	福井県立大学生物資源学部 教授
坂野上 芳 行	東尋坊観光協会 会長（第4回以降交代）
→小 針 悟	
阪 本 周 一	エコネイチャー 彩 みくに 会長
下 影 務	安島自治会 会長
鈴 木 隆 史	越前松島水族館 館長
松 井 康 彦	国土交通省北陸地方整備局 敦賀港湾事務所 工務課長
→高 橋 伸 一	（第4回以降交代）
玉 置 文 志	国土交通省北陸地方整備局 福井河川国道事務所 副所長
勝 又 久 雄	海上保安庁第八管区海上保安本部 福井海上保安署 署長
→田 村 香都丸	（第4回以降交代）
難 波 英 夫	崎自治会 会長
新 宅 隆	梶自治会 会長
→舛 井 知 敏	（第3回以降交代）
→兵 掘 英雄	（第6回以降交代）
増 永 裕	福井県安全環境部廃棄物対策課 課長
矢 尾 良 雄	福井県土木部砂防海岸課 課長
→森 岡 清 信	
矢 口 眞 治	雄島漁業協同組合 組合長

### 6.3 議事内容

開催日時や主な議題等を表 6.3-1 に、開催状況を図 6.3-1 に示す。第1～4回地域検討会は、調査計画及び調査結果の報告が主であったが、第5回は、それらの結果を踏まえた今後の対策や枠組み作りを記載した地域報告書の議論であった。

なお、詳細な議事概要は、参考資料に記載した。

表 6.3-1 地域検討会（福井県）の概要

検討会の名称	日時と場所	主な議題
第1回地域検討会	平成19年8月30日（木） 19:00～21:00 坂井市三国総合支所 4階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年度調査の全体計画</li> <li>概況調査計画</li> <li>クリーンアップ及びフォローアップ調査計画</li> <li>その他の調査計画</li> </ul>
第2回地域検討会	平成19年11月19日（月） 19:00～21:00 坂井市三国総合支所 4階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回議事概要等</li> <li>概況調査結果</li> <li>クリーンアップ及びフォローアップ調査結果</li> <li>その他の調査の進捗状況</li> </ul>
第3回地域検討会	平成20年3月5日（水） 9:30～12:00 坂井市三国総合支所 4階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回議事概要等</li> <li>概況調査結果</li> <li>クリーンアップ及びフォローアップ調査結果</li> <li>その他の調査の進捗状況</li> <li>今後の検討事項</li> <li>次年度調査計画について</li> </ul>
第4回地域検討会	平成20年5月29日（木） 13:00～15:00 坂井市三国総合支所 4階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回議事概要等</li> <li>平成20年度実施計画</li> <li>クリーンアップ及びフォローアップ調査結果</li> <li>その他の調査の進捗状況</li> <li>地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方</li> </ul>
第5回地域検討会	平成20年12月1日（月） 14:00～17:00 坂井市三国総合支所 4階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回議事概要等</li> <li>地域における調査結果</li> <li>地域における漂流・漂着ゴミに関する技術的知見</li> <li>地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方</li> </ul>
第6回地域検討会	平成21年2月20日（金） 13:00～15:00 坂井市三国総合支所 4階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回議事概要等</li> <li>地域における調査結果</li> <li>地域における漂流・漂着ゴミに関する技術的知見</li> <li>地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方</li> </ul>

第2回地域検討会（平成19年11月28日）



第3回地域検討会（平成20年2月27日）



図 6.3-1 地域検討会（福井県）の開催状況